

医療機器検討会 事業報告

増井孝実*, 藤原基芳*, 脇田守基*

Annual Report of Meeting for the Study on Medical Equipment

Takami MASUI, Motoyoshi FUJIWARA and Moriki WAKIDA

1. はじめに

臨床工学技士は医療現場で機器を取り扱う専門職であるため、日常業務の中で機器の改良点や新規アイデア等多くの“気づき”をお持ちのほうである。この“気づき”を紹介してもらいながら、意見交換や技術交流が出来る“場”を提供できればと、医療機器検討会の企画をスタートした。当検討会を通じて、自社の技術力の強みを生かした、医療機器開発に取り組むきっかけを得ることが出来、それが医療機器分野への新規参入へと繋がっていくことを望んでいる。

2. 検討会の開催

検討会を昨年度に引き続き第3回、第4回と2回開催した。開催概要を表1に示す。

第3回は製造販売業の八神製作所の講師より、医療機関から求められているニーズの紹介、医療機器製品の開発から販売までのプロセスについて、アドバイスを頂いた。

第4回は伊勢赤十字病院のご協力を得て、臨床検査技師の方に医療機器が実際に使われている現場からの“気づき”の紹介や、自身で作られた補助器具の説明を頂いた。また、病院内の施術室のアンギオ室、ME室等を、臨床工学技師に直接説明をもらいながら見学を行った。

3. 事業の実施結果

本年度2回の開催で、延べ43名の参加があった。企業、医療関係者及び支援機関から多数の参加が

あり、医療機器分野への関心は高い。

第3回は販売する側から、医療機器分野の通常の工業製品と異なる業界独特の商品開発の仕方や、販売ルートについて講演頂いた。アンケートには、「最初の販売は大手メーカーの看板が必要であることを認識した」「このような製販メーカーとの繋がりが欲しかった」等の意見が寄せられた。講演後の質問も非常に多く活発な検討会となった。

第4回の病院現場での検討会では、普通では入ることの出来ない、カテーテル手術を行うハイブリッド手術室等を案内してもらえ、自社で生産できる商品はないかという視点で、高額な医療機器本体はもとより、接続されている制御装置や各部屋の特殊な構造などについても観察が出来た。装置に接続されているモニターの多さや、その配線が束になるほど多いことに驚かされた。それら配線をキャスターが踏まないように車輪をカバーするリングなどのアイデア商品は重宝されているようで、現場でないと思えばならない製品はまだ多く残されている印象を受けた。



図1 第4回検討会 見学会の様子

* 電子機械研究課

表 1 平成 30 年度に開催した医療機器検討会

検討会	開催日	場所	内容	参加者数
第 3 回 医療機器検討会	平成 30 年 7 月 27 日	工業研究所	医療機器検討会についての趣旨説明 【講演】 「医療機器をどう作るか、どう売るか」 製造販売業大手会社からのアドバイス	26 名
第 4 回 医療機器検討会	平成 30 年 10 月 8 日	伊勢赤十字病院 多目的ホール やまだ	【講演】 「臨床工学技士が開発した機器と現在の ニーズについて」 現場の視点に基づき開発された機器の 紹介、潜在ニーズの紹介 【見学会】 臨床工学技士の案内による、アンギオ室、 ME 室、物品管理室等の見学	17 名

また、カテーテル手術の現場では、それぞれの用途に合わせたカテーテルの種類が多く、一つ一つが高価であること、それらストックの量が膨大であることなども見て取られ、この商品だけでも大きな市場であることが認識された。

4. 今後の取り組み

次年度においても、医療機関のご協力を得て、臨床工学技士や他の医療従事者のご意見をお聞き

する講演会や、現場の見学会を企画していきたい。
これら検討会で、医療機器分野参入への何かのヒントが得られれば幸いである。

謝辞

検討会の遂行に当たり、協力をいただきました鈴鹿医療科学大学 医用工学部長 伊原正教授、および伊勢赤十字病院 臨床検査技師 北村拓氏に深謝します。